

日時: 令和5年2月 20 日(月) 14:00~15:30

場所: 大阪府立東住吉総合高等学校TRYルーム

1. 開会
  2. 学校長挨拶
  3. 出席委員紹介 : 福井 康雄 委員、岡本 英三 委員、東 春年 委員、宮崎 日和 委員 計4名
  4. 協議
- (1) 保護者からの意見書提出状況について : 特になし
- (2) 学校教育自己診断について : 教頭より

#### 【生徒】

- ・「学習指導」「生徒指導」「進路指導」「教育相談」について、すべての項目で生徒の肯定的割合は増加した。
- ・日頃から教育相談室と保健室の連携を図るとともに、教育相談支援委員会を月1回開催(SC同席)し、生徒を支援したことと年次主任会議に養護教諭を加え、月2回の開催を毎週開催に変更したことや、一人ひとりの先生方が生徒の気持ちに寄り添いながら、親身になって対応したことが生徒の肯定率の増加につながったと思われる。

#### 【保護者】

- ・「授業参観・学校行事への参加」の肯定的割合が 0.6 ポイント減少、36.7%。(目標値 62.0%)
- ・コロナ禍により年2回の公開授業週間が実施できなかったことと、学校行事への参加については人数制限があったことなどが考えられる。来年度は教育活動に制限はないので、公開授業週間の実施と人数制限を撤廃したい。

#### 【教職員】

- ・「学校行事の工夫・改善」をはじめポイントが増加した項目は、担当の部署・教職員の尽力によるものである。また「教職員の相互理解、信頼関係」が R2 より 21.9 ポイントも増加してきたのは嬉しい限りである。
- 「各分掌や各学年間の連携と有機的機能」は本校の課題である。教職員の相互理解と信頼関係が高まって来たので、本校の課題に対して教職員の自律性・自主性・主体性を尊重しつつ、共通了解・共通了承・合意形成をはかるための行動としての協力や調整、調和文化の醸成に教職員を参画させ、自ら実行する経験を積み上げるよう支援していく。
- 「校内研修や授業見学機会」については、昨年度・今年度は「観点別学習状況の評価」の研修に重きを置いたので、来年度からは従来の「授業改善」「授業見学」も視野に入れるとともに、校内研修については他の研修も含め、年度当初から計画を立てるよう支援していく。
- 「教育活動の特色」については昨年度 88.9%と高く、16.5 ポイント減少した原因については引き続き分析していく。

#### (3) 分掌・年次報告

- ・教務部
  - ・今年度入学生より、新学習指導要領による観点別評価を行った。
  - ・10 期生からの6つの系列が機能している。英数系列が、四年制大学進学において成果が出ている。
- ・生徒指導部
  - ・大きく取り組みは変わっていないが、今年度、遅刻・欠席・懲戒件数が大幅増。
- ・進路指導部
  - ・大学進学で例年よりもいい結果である。指定校から公募・一般受験への指導の成果。
  - ・就職もコロナ前へV字回復。面接指導を頑張った結果である。

- ・保健部 ・行事の復活に伴い、体育祭では熱中症、文化祭では飲食に注意を払い指導を行った。
- ・総務部 ・喜連西小学校ボランティアや地域公開講座に多数の生徒が参加。  
・今年度の芸術鑑賞は和太鼓の3回公演を実施した。JASSO奨学金事務について。
- ・生徒会 ・今年度は、文化祭と体育祭の両方を実施した。生徒の満足度は増加した。  
・部活動加入率は50%を切っている。
- ・各年次(3年)・進路実現に向けて、特に進学では、最後まであきらめずに頑張った。  
・春は進路学習を行い、秋には京都へ遠足に行った。  
(2年)・沖縄県への修学旅行を実施した。  
・事前学習においては、一人一台端末をフル活用して、発表を行った。  
(1年)・多くの生徒が体育祭と文化祭を開催できたことに満足していた。  
・観点別評価の中で「主体性」を意識して学習活動にのぞんでいる生徒が多い  
・1台端末の活用で中学では体験していなかった授業内容におおむね満足している  
・「産業社会と人間」を通して将来について考える機会を持つことができた  
・朝の短時間学習において基礎力が向上したと感じている生徒がいる

(4) 令和4年度学校評価(案)について

- ・承認されました。

(5) 令和5年度学校経営計画「めざす学校像」及び「中期的目標」(案)について

- ・承認されました。

5. その他

委員より

- ・報告を聞いて、しっかりやっていたと思う。
- ・体育祭・文化祭・修学旅行等の行事ができてよかった。
- ・コロナ禍の中、生徒が何を求めているかを考え、文化祭・体育祭の両方を工夫して実施されたことは大変良かったと思う。
- ・学校教育自己診断の分析等アンケートの分析は大変だったと思うが、生徒・保護者・教職員の意見をくみ取る手段としては、有効活用されていると感じた。
- ・ヤングケアラーについての対応はどうされているのか。  
⇒ 令和5年度はSSW(スクールソーシャルワーカー)の配置を考えている。SSWは1回6時間、年間10から30回程度の派遣がされるもの。SSWは、生徒や保護者と面談をし、課題を明らかにして見立て、関係機関へつないでゆく役割。教育庁作成の活動事例集を参考に对应していく予定。

6. 学校長より 謝辞

7. 閉会